

37 頁 上から 7 行目

(誤)
$$M = \begin{pmatrix} x_{11} - \bar{x}_1 & \cdots & x_{1m} - \bar{x}_1 \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ x_{n1} - \bar{x}_n & \cdots & x_{nm} - \bar{x}_n \end{pmatrix}$$

(正)
$$M = \begin{pmatrix} x_{11} - \bar{x}_1 & \cdots & x_{1m} - \bar{x}_m \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ x_{n1} - \bar{x}_1 & \cdots & x_{nm} - \bar{x}_m \end{pmatrix}$$

47 頁 表 4.1 の関数名 runif の用途

(誤) 一様分布の発生

(正) 一様分布に従う乱数の発生

48 頁 上から 2 行目

(誤) デフォルトでは, (0,1) 上の一様乱数を発生させる.

(正) デフォルトでは, [0,1] を台を持つ一様分布の密度関数である.

51 頁 下から 1 行目

(誤) (4.9) が確率関数になっていることを示せ.

(正) (4.9) が確率密度関数になっていることを示せ.

55 頁 上から 3 行目

(誤) X の確率分布を指定するとモーメントが計算できるが, 逆に, 全てのモーメントを決めると X の確率分布が定まることが知られている.

(正) X の確率分布を指定するとモーメントが計算できるが, 逆に, 全てのモーメントが存在し, $\sum_{k=0}^{\infty} E(X^k) \frac{z^k}{k!}$ の収束半径が正であれば, X の確率分布が定まることが知られている.

159 頁 上から 3 行目

(誤) `> y <- 2*x-x^2 + rnorm(length(x), 0, 0.1)`

(正) `> y <- x^3-3*x + rnorm(length(x), 0, 0.1); print(cor(x,y))`

165 頁 下から 2 行目

(誤) $I^2 = \left(\int_{-\infty}^{\infty} e^{-ax^2} dx \right) \left(\int_{-\infty}^{\infty} e^{-ax^2} dy \right) = \dots$

(正) $I^2 = \left(\int_{-\infty}^{\infty} e^{-ax^2} dx \right) \left(\int_{-\infty}^{\infty} e^{-ay^2} dy \right) = \dots$